

池の平クリスチャン村

会員の現状調査アンケート： 参考資料

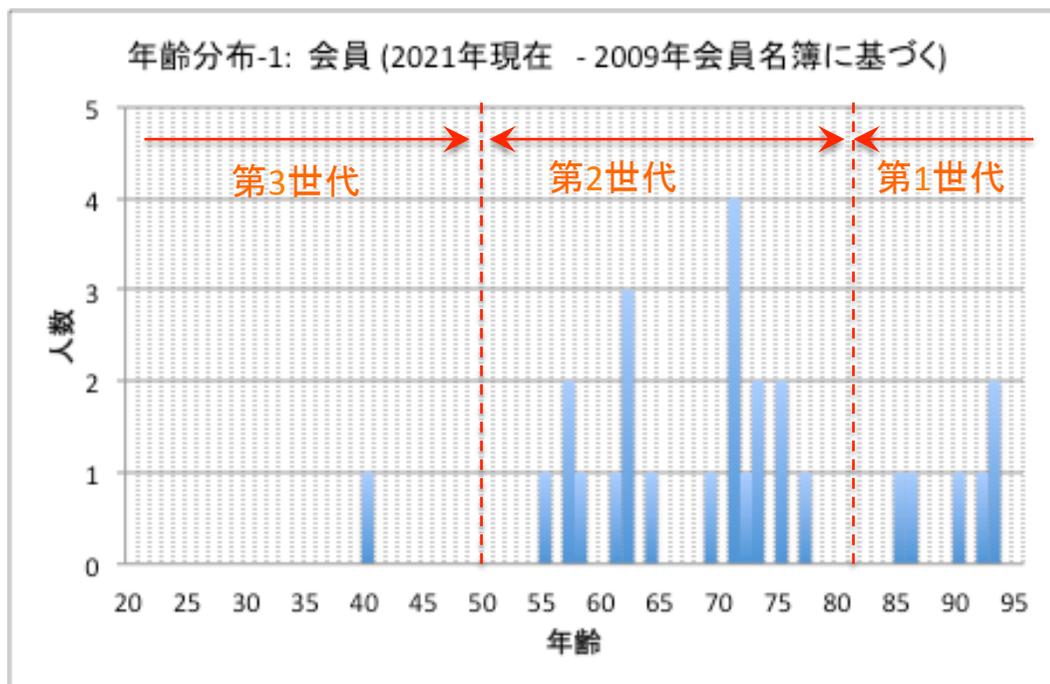
ICA 会員の皆様

2023年の池の平クリスチャン村設立60周年に向けて、クリスチャン村は会員の世代交代や山荘の継承などを考えて行く時期に差し掛かっています。現在「会員の皆様の現状を把握し、今後の運営の参考とするためのアンケート」が実施されていますが、それに合わせて個人的に「クリスチャン村の現状・課題・活性化に関連する要因や過去の経緯などをまとめた資料」を準備しました。現在のクリスチャン村の現状を振り返る事によって少しでもアンケートの参考になれば幸いです。池の平クリスチャン村が、いつまでも私達にとっての理想的な場であり続けることを願ってやみません。

2021-12-28 村上伸明

1. 背景：クリスチャン村会員の年齢構成と課題

- 現在、クリスチャン村会員の年齢構成は 40歳から 93歳にわたっています。
 - 年代として多いのは ① 85歳以上（第1世代） ② 69歳から 77歳まで（第2世代前半）そして ③ 55歳から65歳（第2世代後半）の3つのグループに分類されます（50歳以下は1名のみ）。
 - 第2世代は今後も会員としての活動が可能（年令によって10～数十年）と考えられますが、第1世代については「次世代への継承」が早急に必要と考えます。



- ・ 第1世代： 7名 (85～93歳)
- ・ 第2世代前半： 11名 (69～77歳)
- ・ 第2世代後半： 8名 (55～64歳)
- ・ 第3世代： 1名 (40歳)
- ・ 未確認： 2名

- また、会員の高齢化に伴って後継者が見つからない場合には。退会后建物を撤去せざるを得なくなるケースが増えています。
 - 地番 No.52 の中村さん山荘の継承者探しが現在進行中ですが、他の第1世代会員の年齢を考えると同じ状況は十分に起こり得ると考えられ、第1世代会員の方々はできるだけ早く後継者の目処を付けておく事が重要な課題になります。
- 池の平クリスチャン村にとっての現在は「これから更に長期に渡って存続させて行く為には何が必要か」という点について、色々な角度から見直しを行い「具体的な対策を検討していく時期」に差し掛かっていると考えます。

2. 活性化に必要な要因の確認

- 次ページに「クリスチャン村の活性化の為に考えられる必要な要因と関連性」をまとめます。

クリスチャン村の活性化

イメージ: 適正な会員数で
個々を尊重しつつ活発な交流を保ち
静養と修道・求道の両立を実現する
(クリスチャン村理念の継承)

対象

既存会員

新会員

課題

- 第1世代からの世代交代
- 第2・第3世代の村運営への参加
- 交流の活発化

- 新規会員募集
→ 会員条件の妥当性確認

アプローチ

- 現状の把握
- コミュニケーションツールの強化
- 交流の場・チャンスを増やす

- クリスチャン村の魅力アップ
→ インターネット環境改善
→ 他のアピール出来る要因は?

アクション

- アンケート調査
- インターネット環境改善 → 教会堂に「光ネット回線」の導入を計画(2022年6月末を目標に開始予定)

- ホームページの活用
- マスコミ・ロコミを通じた積極的な紹介・勧誘活動
→ 会員への協力依頼

3. 活性化に関連する要素

1) 適正会員数は？

- クリスマン村会員数： 現状 会員 29名 + 村友 6名
- 1993年には 50名の会員が 39の山荘を保有して、区画は全部埋まっていました。入会金は今の10倍以上の 230万円で、会費は 8万円（山荘所有）と 7万円（山荘非所有）でした。 バブル景気の名残でまだレジャー志向が活発だったことや当時の第 1 世代会員の年齢層が「壮年期」だった事が背景にあります。
- 今は高齢化が進み、会員数も評価額（入会金・会費）も低くなった為、クリスマン村の将来像に応じた適正な会員数を確保して行く必要があります。また、妙高高原教会の会員数(35名)と構成との関係についても把握しておく必要があると考えます。

2) クリスマン村をどのような組織・環境にして行くか？

- 選択肢
 - ① 今までの路線を踏襲する → 活力が失なわれてしまわないか？（会員数の減少・高年齢化）
 - ② 会員数を増やす為にシステム（会則や運営）をもっと柔軟に（効果が出るような内容に）変えて行く → 雰囲気が変わってしまうリスクは？

- これらの方向性については、以前から「検討事項」として話し合われて来ました。 クリスマン村を「信徒主体」か「（妙高高原村のように）オープンにするか」という点とも関連していて、以前にクリスマン村の会則が改定された経緯にも重なっています。
- もともとクリスマン村の母体は妙高高原教会にありますので「クリスマン村は、妙高高原教会の「信徒」と「非信徒（求道会員）」が融和した環境を維持していく場所」だと感じています（現実にそれが維持されて来たと思います）。「クリスマン村の活性化は、具体的に（世代交代と並行して）これからの村の運営をどのように展開してしていくか」という点がポイントになると考えます。

【検討課題】

- クリスマン村運営への**若手世代・求道会員の積極参加**
- **会員間（信徒－非信徒間）の交流、意見交換の活発化** → クリスマン村理念を認識し共有する場・機会の必要性（集まりの場を持つなど）
- **新規会員募集の対象範囲拡大の必要性は？**（信徒・非信徒というくくりにとられない形のアプローチなど）
- その他

3) 会員間のコミュニケーションのあり方は？

- 以前は会員間でお互いの山荘を気楽に訪問し合うような雰囲気があって、意見交換が自由かつ活発に行われていました（ただし必ずしも「まとまっていた」とは言えません）。
- 現在は Face to Face よりもインターネットでを通じたコミュニケーションの方が一般的になっていますので、先ずインターネット環境の改善が必須ですが、同時にハイキングやバーベキュー等のイベントや年代毎に集まる機会を作るなどの、システムや環境作りも大切ではないかと思えます。 1993年のパネルディスカッションでの次の5項目が重要項目としてまとめられています。
 - ① 家族会員のシステム化を図る
 - ② スキースクール・ハイキング以外にも多くの活動を行う。それを企画して実行する為に、理事会の他にいくつかの委員会を作る
 - ③ グループ別の懇親会を企画する
 - ④ 第2世代の30才代、40才代の人々が、会社内で、多忙過ぎる事情も考慮する必要がある。
 - ⑤ 家庭の中で、親子間で、ICA の継承をどうするかについて、よく話し合っしてほしい。

現在と状況は異なりますが、課題と必要な対応策には共通点があると感じます。

4. まとめ

- 1993年の30周年に持たれたパネルディスカッションでの「クリスチャン村のあり方と継承問題についての議論」を始めとして、その後40周年から50周年にわたって田中穂積さんが検討された「近未来シミュレーション（クリスチャン村の将来像）」など、「クリスチャン村の継承」というテーマは様々な形で継続的に考えられてきました。そしてこれはまさに現在のクリスチャン村が直面している課題であり討議事項です。
- そこで“これからのICAに望むこと”を明確にし「クリスチャン村の活性化」を実現して行くには以下のようなステップが必要と考えます。
 - ① クリスチャン村各会員の「現状認識・将来像を共有化」する
 - ② 相互コミュニケーションによって「将来像の方向性・目標」を確認する
 - ③ 目標実現に向けて「具体的なプランを作り上げて実行」する
- 以上のプロセスは時間がかかる作業になると思いますが、先ずは一步踏み出す事がなにより大切だと思います。 今回の「アンケート」が、会員間の情報共有と今後の方向を見つけていく為のステップのなること、また、改訂版のホームページが、相互コミュニケーションのツールとして「ICAの将来」についてのオープンディスカッションの場として活用される事を願っています。

[ICA-IT環境改善プロジェクトチーム： 文責 村上申明]